月刊脊振（げっかんせふり）

福岡県議会議員
（南区選出）
ひぐち明後援会会報誌

ひぐち明後援会事務所
〒811-1311
福岡市南区横手4-5-1
TEL.092-573-1892
FAX.092-573-1897

ホームページ
www.higuchi-akira.com

安心して食べられる学校給食を子ども達に！

早いもので、今年もうさくらが咲き始める季節となりました。このところ暖かい日が続き、新学期を控えた子ども達が元気いっぱいに外で遊ぶ姿を見かけることも多くなったように思います。春休み中は、お昼ごはんや習い事など子ども達の世話でお母さんたちは大忙し、学校が始まるとようやくほっと一息つけるという話も聞きますが、その学校における子ども達の食の安全については不安の声が大きくなっています。

外国産農作物の残留農薬問題や、食品の産地偽装、賞味期限の改ざんなど、このところ食の安全を脅かすようなショッキングな事件が多発し、常にない危機意識の高まりをみせていますが、給食の安全についてはどのような配慮がなされているのでしょうか。3月の議会で、私はこの点について質問してまいりましたので、ここでご紹介したいと思います。

私は、外国産の農作物が悪であるというつもりはもちろんありませんが、安全な食品を口にするためには、地産地消の原則に立ち返ることが非常に有効であると考えます。たとえば、野菜を栽培している畑で、その野菜の成長過程を実際に確認できるという安心感は他に変えがたいものです。長距離・長時間の輸送の必要がない食品は過剰な保存料を加える必要もありません。多様化する現在の食生活においてはやむを得ないという側面はあるものの、日本の食料自給率は40%を下回り、福岡ではそれをさらに下回って22%の自給率で推移しています。福岡は博多なすやぶなしめじ、そして近年では海外からも人気の高い苺のあまおう等、多くのブランド食材を全国に送り出し、玄界灘からは豊かな海のさちがもたらされる美食の宝庫です。食の安全と県内農業の発展のためにも、このすばらしい環境を食料自給率の向上に結び付けていくよう努めるべきでしょう。

そういった観点からみても、学校給食の原材料の選択は非常に重要です。

中国の餃子事件以降、学校給食の献立にあらゆる中国産の食材を選ばないという決断を下した自治体もあります。しかし、できるかぎり中国産品の食材を選ばないようにした結果、代替食材との価格差を給食費の中で吸収できず、品数や量を減らしたり、給食費の値上げに踏み切ったりする自治体があることもまた現実です。福岡でも、学校給食の食材の11.3%（重量ベース）は外国産農産物が占めています。すべての中国産食材を使用禁止にすれば、価格の高い代替食材を使わざるを得ないケースも出てくるでしょう。現状ですでに近年の食材費の高騰を受けて21の市町村が給食費の値上げを検討している状況であり、この上すぐにすべての食材を国産品に限定するということは現実的ではありません。

「もったいない」という意識のより一層の浸透を。

そんな状況を改革するには、地産地消の努力や近隣県との連携ももちろん大切ですが、やはりエコの基本である一人ひとりの心がけや「もったいない」の精神に立ち返ることもまた必要です。昨年の夏、私の家庭ではダンボールコンポストに取り組みました。これは、毎日出る生ごみを、ピートモスとくん炭を入れたダンボールの中に混ぜ込んでおくと、翌日にはほぼすべてのごみを土に還してくれるという驚きのリサイクルボックスで、ごみを減らすことはもちろん、「たくさんのごみを出してはいけない」という意識を高めるためにも非常によい試みだと思っています。

学校給食でももちろん先生方によって「食べ残しはいけない」という指導がなされているとは思いますが、それでも生ごみは必ず出てくるものです。学校でこのコンポストをはじめれば、焼却処分される廃棄物も大きく削減できるでしょう。また、コンポストの中に残る土は非常に良質の堆肥になりますので、この有効活用も望めます。

今回の質問で中国産を含む外国の食材の安全性の向上と、地産地消の一層の努力を福岡県に取り組んでいただけるようになりました。

子ども達が安全・安心の食材を口にすることができるよう、皆で知恵を絞り、あらゆる観点から改善の努力を続けていくことが、未来の福岡の礎ともなります。皆さま、是非ご意見をお寄せ下さい。

南区トピックス

福岡は、日本で3番目に若者の多い街だそうです。15歳から29歳の若者の比率は5人に1人以上。学校数も多いので、学生の割合も高くなっています。

第一薬科大学や香蘭女子短期大学など、多くの大学を擁する南区でも若者の比率はもちろん高く、新入生の皆さんがそここで初々しい姿をみせてくれています。

他県から入学の方々も多いと思いますが、明るくにぎやかなここ福岡の町で充実した学生生活を送っていただきたいと願っています。

データは住民基本台帳2008年度版より

この用紙は、エコマーク認定の100%再生紙を使用しています。

福岡県議会議員
自由民主党

ひぐち明（あきら）

（福岡市南区選出）

４月に入り満開に咲いた桜の花も散り始め、春の終わりを感じる頃となりました。昨年の今頃は選挙真っ只中、たくさんの花見会場にご挨拶に伺ってはいたものの、桜をゆっくり観賞する余裕など全くありませんでした。そこで私は、昨年の花見不足を取り戻そうと、今年は花見の日帰りバスツアーを企画しました。４月１日に後援会の皆様と佐賀に日帰り旅行に行き、お掛け様で昨年の花見不足はすっかり解消することができました。ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。

先月は県議会が１ヶ月以上行われていましたので地域の皆様との接触が少なかった分、今月は地域活動の方も力を入れていきたいと思います。また、今年に入って各校区の県政報告会も再開しましたので、是非、皆様お立ち寄り下さい。いろんな情報をたくさん揃えてお待ちしております。

ひぐち明の「あきらめないブログ」より

（4月18日）

　降り続いた雨もあがり、気持ちの良い青空が広がっています。今週末は絶好の行楽日和だとのことで、家族でお出かけの方も多いのではないでしょうか。

　そんなときにやはり一番の悩みの種が渋滞です。環境にも悪影響を及ぼすこの渋滞を緩和させるべく、数年来、私が公約として掲げてきたのが「那珂川水上バス構想」です。

　これは、渋滞の激しい都市部まで川の道を活用して乗り入れられるように那珂川に水上バスをを定期運航させることを目指す構想です。本日は、この水上バス構想が、少しずつではありますが実現に向けて動き始めていることを皆さまにご報告したいと思います。

　いま、福岡都市圏交通対策協議会のみなさんが那珂川水上バスの実現性について調査をはじめてくださっています。9月には調査結果が出てくるとのことで、私はこれを受けて今年中にはより突っ込んだ質問を議会で行う予定です。

　那珂川は部分的にに非常に水深が浅く、船が通れない部分があることが、水上バスの定期運行についてもっとも大きな障害でしたが、これについても予想以上のスピードでしゅんせつ工事（川の底の土砂などを取り去ること）が進んでおり、解決のめどはあります。

公共交通についてのことですから、一朝一夕に実現する構想ではありませんが、早期の実現に向けてがんばっていきます。応援よろしくお願いいたします。

（※写真はしゅんせつ工事の様子です）

ブログ本文より抜粋。

http://www.higuchi-akira.com/

ひぐち明略歴

福岡南博（なんぱく）幼稚園卒園
福岡市立春吉小学校卒業
福岡市立春吉中学校卒業
東福岡高校卒業
カナダ合衆国州立コンコーディア大学中退
国会議員秘書・設計会社社員を経て、
2003年4月福岡県議会議員に初当選
2007年4月福岡県議会議員に再選
・現在2期目

◇昭和45年10月15日生まれ・37歳
◇てんびん座・O型
◇家族構成　妻　息子
◇スポーツ歴 空手3年　・　ラグビー3年　・
バスケ3年　・　レスリング12年
◇趣味　家族旅行

妻コラム

春風が心地よい季節になりました。皆様、今年のお花見はいかがでしたか？

今年は、初めてお花見バスハイクを主催し、沢山の方にご参加くださいました。暖かい晴天に恵まれ、私共も楽しい一日を過ごさせて頂きました。本当にありがとうございます。

　次回は、夏の企画を予定しています。ご都合が合えば是非、皆様もご参加下さい。

　普段、見慣れた風景が花々に彩られるこの4月は、進学や就職、転居など、新しい出発の季節でもあります。皆様のより一層のご活躍を、応援申し上げます。

　私も、新入園児の母として『春眠暁を覚えず』にならぬよう、気を引き締めてがんばります。